

# 第35期 中間報告書

平成22年7月1日から平成22年12月31日まで



Medical



Device



*Dream*



Medical



Device



## 目次

ごあいさつ	2
連結財務ハイライト	3
トピックス	5
セグメント別営業の概況	7
第2四半期財務諸表（連結）	9
● 四半期連結貸借対照表	
● 四半期連結損益計算書	
● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	
会社の概要・株式の状況	11
株主メモ	13

## 株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
さて、ここに当社グループ第35期第2四半期連結累計期間（平成22年7月1日から平成22年12月31日まで）の営業の概況についてご報告申し上げます。

当社グループは、主に治療用カテーテル類のディスプレイ製品を取り扱う医療機器業界を主軸として、極細ステンレスワイヤーロープを取り扱う産業機器業界にも属しております。

当社グループが属する医療機器業界は、医療人口の変動、医療保険制度や薬事法などの行政の方向性、世界規模での医療機器企業の編成、特に発展途上国を中心とした経済動向、さらには為替動向など、事業に影響を与える外部環境は多様であります。

大きな方向性として、人口の増加と高齢化、そして医療費制度改革などを受けて世界市場は拡大しつつあります。これまでは比較的、米国・欧州・日本など医療インフラが充実した先進国に偏った市場構成でしたが、昨今では中国を中心としたBRICs等の市場が急速に拡大しております。

こうした市場の拡大に合わせて、医療保険制度は、世界的に改革の気運が高まっております。日本国内におきましては、既に厚生労働省により医療費抑制政策が推進され、加えて内外価格差の是正を目的として、保険償還価格の引き下げや、診療報酬包括化等の医療制度改革が進められております。直近では、平成22年4月において償還価格の引き下げが行なわれております。

医療機器最大の市場である米国におきましては、平成22年3月に医療改正法が成立しており、政府からの医療費支出の増加や、被保険者の増加が見込まれます。反面、医療機器企業への増税など様々な医療費抑制政策なども並行して対策が取られることが予測されておりますが、それらの影響は現在のところ明確ではありません。

今後の成長市場である中国では、医療保険の適用範囲拡大や地域診療ネットワークの拡大など、中国全土にて均一な医療サービスが享受できる体制を目指した医療制度改革が推進されており、中国市場の拡大をさらに後押しする可能性が高くなってまいりました。

また、医療機器の販売に関して大きく影響を及ぼす薬事承認プロセスは、日本国内では、厚生労働省により承認遅延問題の解消に向けた取り組みも行なわれているものの、未だ海外と比べて規制が厳しいのが現状であります。また中国では、医療機器の基準・法的システムの確立や医療機器安全性の強化など、中国国家食品薬品监督管理局（SFDA）が監督管理の強化を図るなどしております。これからの影響から、一部の市場によっては、今後の薬事承認プロセスに影響が生じ、販売開始時期が左右される可能性があります。

このような複雑な市場の構造変化を要因として、医療機器企業間では、提携と競合が混在し、企業編成が活発化しております。当社グループに



おきまして、開発・製造・販売のそれぞれの側面から、柔軟な対応を図って参る所存であります。

一方、当社グループが属する産業機器業界は、BRICs等の好調な新興国経済を背景に一部に景気回復基調が見られるものの、依然としてデフレ圧力下の厳しい経営環境にあります。

当社グループが属する業界は、医療機器分野及び産業機器分野共に、多様で不確実性が高い外部環境に対応するために、企業戦略の合理的な見直しを常に求められております。

このような経営環境の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は、急速な円高ドル安によるダメージを受けたものの、メディカル事業及びデバイス事業共に好調に推移し、79億300百万円（前年同期比7.0%増）となり、また売上総利益は、これらの好調な売上に比例し、52億240百万円（同25.0%増）となりました。

営業利益は、開発強化に伴う研究開発費用の増加や、朝日インテックジーマ株式会社を平成22年1月から連結子会社化したことにより費用が増加するなどしており、販売費及び一般管理費は増加傾向にありますが、好調な売上に比例し、18億9百万円（同9.8%増）となりました。

経常利益は、円高傾向により為替差損が増加したものの、17億140百万円（同9.8%増）となりました。

また、四半期純利益は、特別損失に過年度の資産除去債務の計上300百万円があるものの、前連結会計年度に計上された投資有価証券評価損の計上がなくなったこと、前期損益修正損が減少したことなどにより、13億600百万円（同29.8%増）となりました。

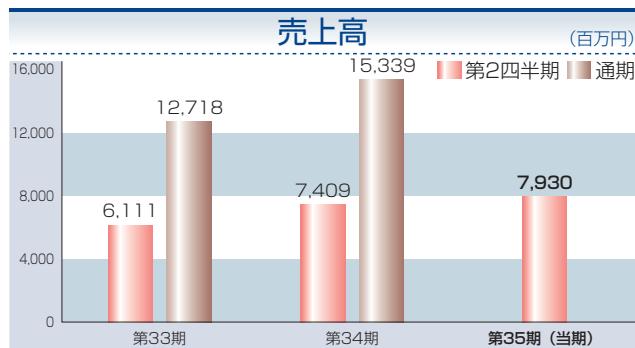
当社グループは、研究開発型企業として、医療及び産業機器分野において、安全と信頼を基盤とする「Only One」技術や「Number One」製品を世界に発信し続けることにより、全てのお客様の「夢を実現すること」に、広く社会に貢献していくことを企業理念としております。また特に、当社グループの医療機器分野事業は、主に、傷口が小さく痛みの少ない「低侵襲治療」の製品を開発・製造・販売しており、患者様の肉体的・精神的・経済的負担を軽減し、そして医療費抑制にも貢献できる、大変意義のある事業であると考えており、今後も、社会に貢献できる企業であり続けることで、社会からも市場からも評価される企業として、さらなる成長を遂げたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

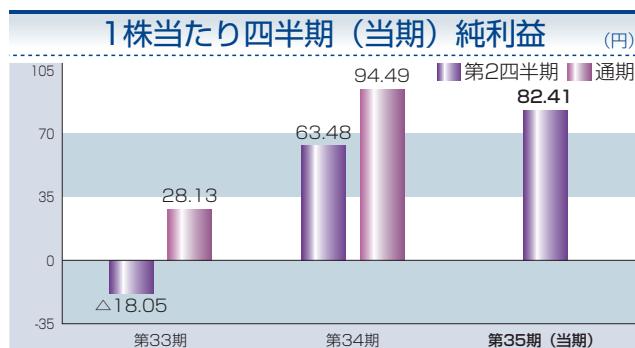
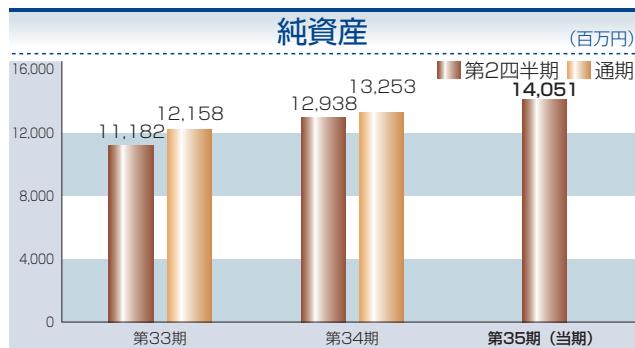
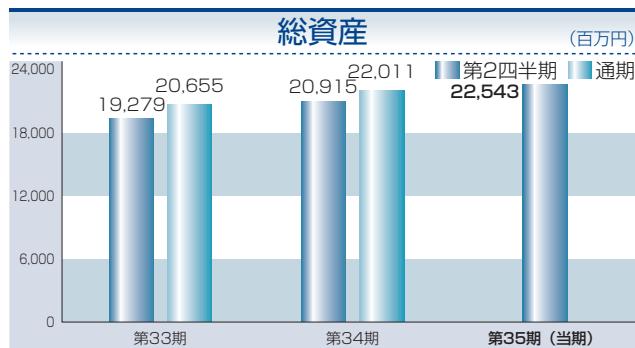
平成23年3月

代表取締役社長 宮田 昌彦

# 連結財務ハイライト



区 分	第33期第2四半期 (20年12月第2四半期)	第33期 (21年6月期)	第34期第2四半期 (21年12月第2四半期)	第34期 (22年6月期)	第35期第2四半期 (22年12月第2四半期)
売上高(百万円)	6,111	12,718	7,409	15,339	7,930
営業利益(百万円)	811	1,782	1,647	2,929	1,809
経常利益(百万円)	389	1,438	1,561	2,785	1,714
四半期 (当期) 純利益(百万円)	△286	445	1,006	1,497	1,306



区分	第33期第2四半期 (20年12月第2四半期)	第33期 (21年6月期)	第34期第2四半期 (21年12月第2四半期)	第34期 (22年6月期)	第35期第2四半期 (22年12月第2四半期)
総資産(百万円)	19,279	20,655	20,915	22,011	22,543
純資産(百万円)	11,182	12,158	12,938	13,253	14,051
自己資本比率(%)	58.0	58.9	61.8	60.0	61.9
1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	△18.05	28.13	63.48	94.49	82.41
1株当たり純資産 (円)	705.43	766.97	815.47	832.89	880.85
1株当たり配当金 (円)	0.00	8.00	0.00	25.00	0.00

## Topics 1

### 学会活動報告

当第2四半期連結累計期間、当社は数多く開催された学会に参加、協賛をいたしました。各講演テーマにて当社製品が採用された他、展示ブースの設置やビデオライブ等を行い、また、デモンストレーションキット等を使用し、当社の製品性能を体感していただけるような製品プロモーション活動を行なってきました。今後もより多くの情報発信を行い、医療発展に貢献できるような活動を行なっていきます。

#### 【国内活動】

##### ①TOPIC2010 (東京パークタネアス カーディオバスキュラー インターベンション カンファレンス)

開催：2010年7月15日～17日 東京 渋谷

当社製品：PTCAガイディングカテーテル「ASAHI CoKatte」

##### ②CVIT2010 (日本心血管インターベンション学会2010)

開催：2010年8月22日～24日 仙台

当社製品：貫通カテーテル「ASAHI Corsair」

学会内容：心臓血管疾患患者に対する有効かつ安全な  
(①、②共) カテーテル治療の開発と発展を目指す学会

##### ③JSNET (日本脳神経血管内治療学会学術総会)

開催：2010年11月18日～20日 北九州

当社製品：脳血管治療用ガイドワイヤー「ASAHI CHIKAI 10」

学会内容：脳神経血管内の治療及びそれに関連する  
領域の学術研究を行なう学会

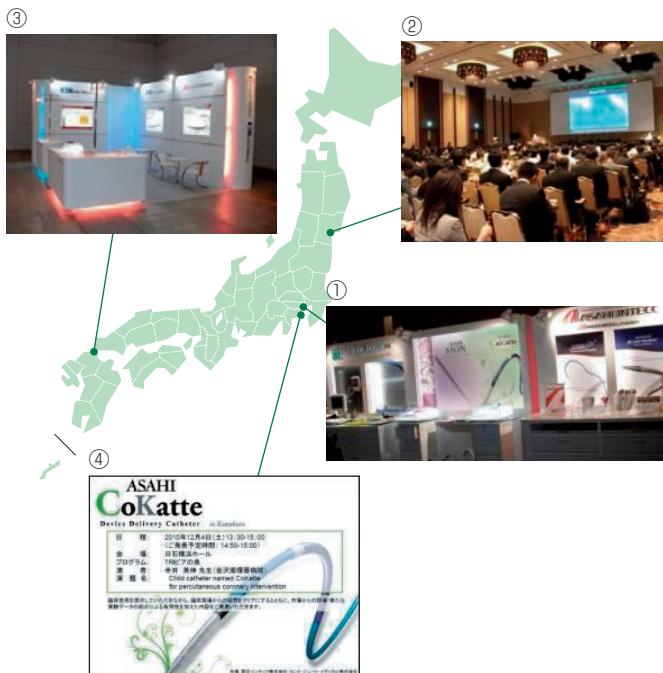
##### ④Kamakura Live Demonstration 2010

開催：2010年12月2日～4日 横浜

当社製品：PTCAガイドワイヤー「X-treme」、PTCA  
ガイディングカテーテル「ASAHI CoKatte」

学会内容：経桡骨動脈的冠動脈形成術治療 (TRI：  
注) に的を絞ったライブデモンストレーションイベント

(注) TRI (Trans-Radial Coronary Intervention) / カテーテルを手首から挿入し、心臓の血管を治療する方法で、足の太ももからの治療に比べて傷口が小さく止血の負担が軽減されるほか、手術直後から歩くことができます。



## 【海外活動】

### ①EURO CTO CLUB

開催：2010年10月15日～16日 ギリシャ

当社製品：貫通カテーテル「ASAHI Corsair」

学会内容：心臓血管の慢性完全閉塞治療（CTO：注）の開発と発展的を絞った学会

### ②北京 長城学会（Great Wall International Congress of Cardiology）

開催：2010年10月14日～17日 中国

当社製品：Fielder系、Miracle系、Conquest系のPTCAガイドワイヤー

学会内容：心臓病（心血管疾患）学に関する学会

（注）CTO（慢性完全閉塞：Chronic Total Occlusion）／血管が動脈硬化により100%石灰化し、血管が詰まった状態をいいます。



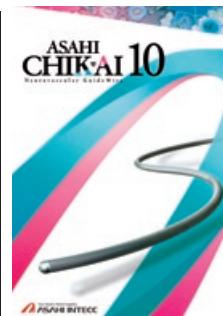
## Topics 2

### 製品のご紹介 「ASAHI SION blue」 「ASAHI CHIKAI 10」

2009年7月に販売開始されたPTCAガイドワイヤー「ASAHI SION」のラインナップ製品として、高い安全性と操作性を持った第1選択タイプのPTCAガイドワイヤー「ASAHI SION blue」を2011年3月末より国内にて本格的に販売を開始します。「安全性」という最も重要な機能を実現するために、先端部分の柔軟性と滑り性の両面を考慮し壊れにくいという特徴を継承し、当社グループ独自のコア技術である「トルク性能」により、一般的な治療から、難易度の高い治療まで高い操作性を維持することが可能となり、また複数の血管の治療にも使用できる製品となっています。

また、脳血管治療の症例数は世界的に伸びていますが、2010年1月に脳血管系治療用ガイドワイヤーである「ASAHI CHIKAI」の販売が開始されました。その後数多くの臨床医師の方々より更なる細径ガイドワイヤーの開発の要望があり、それを受け2010年8月にさらに進化した細径バージョンである「ASAHI CHIKAI 10」の販売を開始いたしました。

両製品ともに今後の治療の発展に大いに貢献できるものと存じます。



# セグメント別営業の概況

当社グループは従来、セグメント情報における事業区分につきましては、「メディカル・ブランド事業」、「メディカル・OEM事業」、「デバイス事業」の3つの事業区分としておりましたが、第1四半期連結会計期間から、組織形態の変更に伴い「メディカル事業」、「デバイス事業」の2つの事業区分に変更しております。

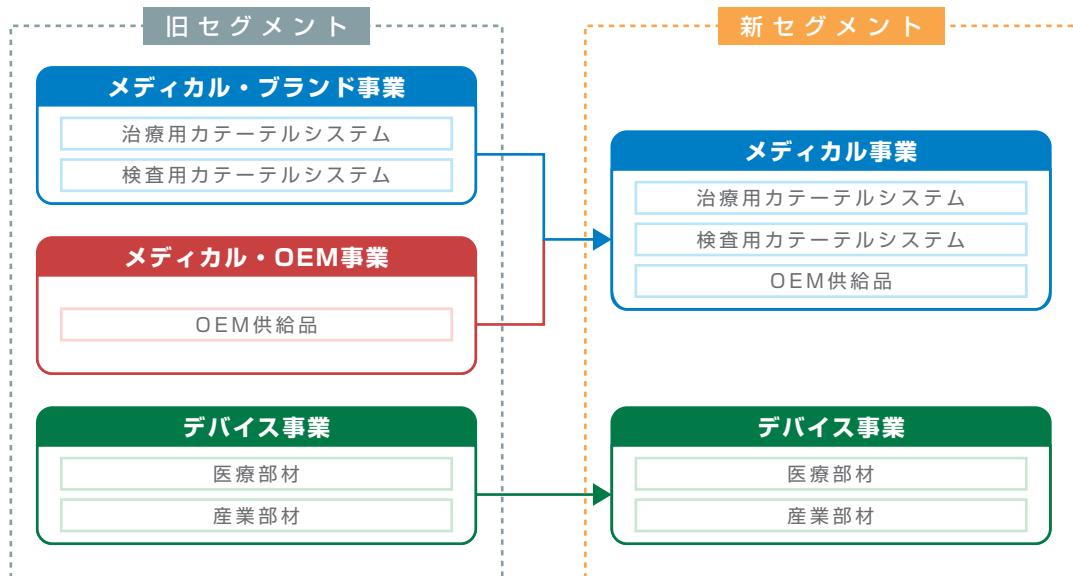
当社グループは、開発・生産・品質管理・販売の役割を明確化し、製品開発スピードや生産性を向上させることなどを目的として、当期よりマトリックス組織への移行を図っております。この横断的組織への変更に伴い、自社ブランド製品を取り扱う「メディカル・ブランド事業」と、OEM供給品

を取り扱う「メディカル・OEM事業」について、一体化した管理を行うことが適切と判断されたことから、このような事業区分の変更を行っております。

## ●セグメント別売上高

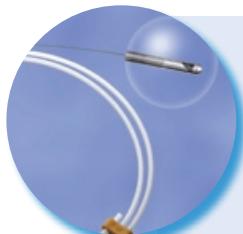


新セグメントと旧セグメントの体制の対比は、次のとおりであります。

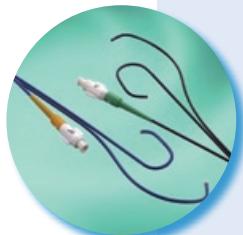


## Medical

### メディカル事業 ~国内海外市場で売上好調~



PTCAガイドワイヤー



PTCAガイディングカテーテル

メディカル事業の売上高の大部分を占める自社ブランドの治療用カテーテルシステムの売上高は、国内海外ともに順調に推移いたしました。

国内売上高につきましては、医療償還価格の下落による影響があったものの、数量増加によりその影響をカバーし、順調に推移することができました。それは主に、循環器系領域において主力製品であるPTCAガイドワイヤーが引続き好調に推移したほか、平成22年1月より本格的に販売開始を行った貫通カテーテル「Corsair（コルセア）」が売上拡大に大きく貢献したこと、及び、循環器系以外の領域では脳血管系領域や末梢血管系領域などの製品群について好調に推移するなどしたことが要因であります。

また、海外売上高につきましては、ドル安など為替動向の変化に伴う売上高減少の影響を受けたものの、中国市場への売上が順調に推移したこと

と、貫通カテーテル「Corsair（コルセア）」について米国を中心に売上高が増加したことなどから、為替動向の変化による売上高減少の影響を縮小し、推移することができました。

なお、検査用カテーテルシステムについては当社グループの方針により特に海外向けを中心として縮小傾向にあります。またOEM供給品につきましては、国内を中心に循環器系検査用カテーテル製品や内視鏡関連製品などが増加いたしました。また、取引先の在庫調整などにより海外向け末梢血管系製品が減少しており、売上高は若干減少しております。

以上の結果、売上高は63億46百万円、セグメント利益は19億40百万円となりました。

## Device

### デバイス事業（医療用部材・産業用部材）~高付加価値製品へのシフト~



ACTONE®（アクトワン）

デバイス事業では医療機器分野及び産業機器分野における部材を取り扱っております。また、当事業では現在、高付加価値製品へのシフト、販売価格の見直しを積極的に行うなどし、利益率の向上を目指しております。

医療機器分野におきましては、米国企業向けの循環器治療用関連部品の売上が先方の売上不振に伴い減少傾向にあったものの、平成22年1月より朝日インテック ジーマ株式会社が連結子会社となったこと及び、米国向けの耳鼻咽喉科関係や

腹部治療用の医療部材が増加するなどし、売上高は増加いたしました。

産業機器分野におきましては、海外向けのペーパー用部材や家電エアコン用ローブ、国内向けの環境対応車への部材供給などが増加したものの、海外向けのOA機器製品や国内向けの釣り糸などのレジャー関係が減少するなどし、売上高は減少するにいたりました。

以上の結果、売上高は15億84百万円、セグメント利益は5億4百万円となりました。

ホームページにて、最新の情報をご覧いただけます。▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

# 第2四半期財務諸表（連結）

## 四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

科 目	第34期第2四半期 (平成21年12月31日現在)	第35期第2四半期 (平成22年12月31日現在)
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>	<b>11,376,336</b>	<b>12,672,524</b>
現金及び預金	4,808,165	5,347,328
受取手形及び売掛金	2,998,167	3,308,789
有価証券	—	200,000
商品及び製品	745,770	904,575
仕掛品	1,341,890	1,296,664
原材料及び貯蔵品	644,689	765,556
その他	887,026	893,793
貸倒引当金	△49,373	△44,184
<b>固定資産</b>	<b>9,539,604</b>	<b>9,870,546</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>7,192,322</b>	<b>7,384,566</b>
建物及び構築物（純額）	3,297,179	3,287,366
その他（純額）	3,895,143	4,097,199
<b>無形固定資産</b>	<b>185,349</b>	<b>485,832</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>2,161,931</b>	<b>2,000,148</b>
<b>資産合計</b>	<b>20,915,940</b>	<b>22,543,071</b>

（単位：千円）

科 目	第34期第2四半期 (平成21年12月31日現在)	第35期第2四半期 (平成22年12月31日現在)
<b>【負債の部】</b>		
<b>流動負債</b>	<b>4,646,113</b>	<b>4,607,515</b>
支払手形及び買掛金	242,059	397,850
短期借入金	2,931,092	2,664,269
未払法人税等	283,288	310,830
賞与引当金	110,338	137,941
その他	1,079,334	1,096,625
<b>固定負債</b>	<b>3,331,217</b>	<b>3,883,770</b>
長期借入金	2,536,374	2,947,293
退職給付引当金	274,032	307,576
役員退職慰労引当金	362,253	362,253
その他	158,558	266,648
<b>負債合計</b>	<b>7,977,331</b>	<b>8,491,285</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	<b>13,564,554</b>	<b>14,962,044</b>
資本金	4,167,950	4,167,950
資本剰余金	4,060,960	4,057,080
利益剰余金	5,335,923	6,737,385
自己株式	△278	△371
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△637,462</b>	<b>△998,459</b>
その他有価証券評価差額金	△38,103	△123,084
為替換算調整勘定	△599,359	△875,375
<b>新株予約権</b>	<b>11,516</b>	<b>80,132</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>—</b>	<b>8,068</b>
<b>純資産合計</b>	<b>12,938,609</b>	<b>14,051,785</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>20,915,940</b>	<b>22,543,071</b>

## 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第34期第2四半期 (平成21年7月1日から 平成21年12月31日まで)	第35期第2四半期 (平成22年7月1日から 平成22年12月31日まで)
売上高	7,409,209	7,930,135
売上原価	3,230,294	2,705,315
売上総利益	4,178,915	5,224,819
販売費及び一般管理費	2,531,277	3,415,488
営業利益	1,647,637	1,809,330
営業外収益	42,217	64,962
営業外費用	128,590	160,209
経常利益	1,561,264	1,714,083
特別利益	8,852	212
特別損失	120,982	37,340
税金等調整前四半期純利益	1,449,134	1,676,955
法人税、住民税及び事業税	427,081	462,075
法人税等調整額	15,683	△95,174
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,310,054
少数株主利益	—	3,717
四半期純利益	1,006,370	1,306,336

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第34期第2四半期 (平成21年7月1日から 平成21年12月31日まで)	第35期第2四半期 (平成22年7月1日から 平成22年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,584,873	1,131,311
投資活動によるキャッシュ・フロー	△486,723	△1,366,047
財務活動によるキャッシュ・フロー	△505,671	△420,984
現金及び現金同等物に係る換算差額	△26,847	△54,280
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	565,632	△710,000
現金及び現金同等物の期首残高	3,945,410	5,099,025
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,511,042	4,389,025

# 会社の概要・株式の状況

## ▶ 会社の概要

商号	朝日インテック株式会社 ASAHI INTECC CO.,LTD.
設立	昭和51年7月8日
資本金	41億6,795万円
従業員数	●単体 375名(平成22年12月31日現在) ●連結2,871名(平成22年12月31日現在)
本社	〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地 TEL 052-768-1211(代)
事業内容	①循環器系疾患の治療及び診断分野においての低侵襲治療製品(治療用カテーテルシステム、検査用カテーテルシステム)の開発・製造・販売 ②消化器分野、循環器分野、透析分野、放射線分野における低侵襲治療製品及び医療部材の開発・製造・販売及びOEM供給 ③産業機器用極細ステンレスワイヤーロープの開発・製造・販売

## 役員(平成22年12月31日現在)

代表取締役会長	宮田 尚彦
代表取締役社長	宮田 昌彦
専務取締役	竹内 謙次
常務取締役	福井 芳彦
常務取締役	宮田 憲次
取締役	湯川 一平
取締役	加藤 忠和
常勤監査役	渡辺 行祥
監査役	佐藤 昌巳
監査役	大林 敏治

(注) 監査役佐藤昌巳、大林敏治は、社外監査役であります。

## 事務所

### ●国内事業所

営業拠点(東京)	東京都新宿区
(名古屋)	愛知県瀬戸市
(大阪)	大阪府和泉市
メディカル事業(瀬戸工場)	愛知県瀬戸市
大阪R&Dセンター	大阪府和泉市

### ●海外事業所

香港支店	中国 香港
EU支店	オランダ アムステルダム
シンガポール支店	シンガポール ビシャン地区
北京駐在所	中国北京市朝陽区

### ●子会社

ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD.	タイランド バトゥムタニ県
ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.	ベトナム ハノイ市
ASAHI INTECC USA,INC.	米国 カリフォルニア州
フィルムメック株式会社	名古屋市守山区
朝日インテックJセールス株式会社	東京都新宿区
朝日インテック ジーマ株式会社	静岡県袋井市



本社(名古屋市守山区)



ASAHI INTECC HANOI CO.,LTD.



ASAHI INTECC THAILAND CO.,LTD. メディカル工場(左) デバイス工場(右)



**▶ 株式の状況** (平成22年12月31日現在)

発行可能株式総数	50,000,000 株
発行済株式の総数	15,852,600 株 (自己株式230株含む)
株主数	2,958 名

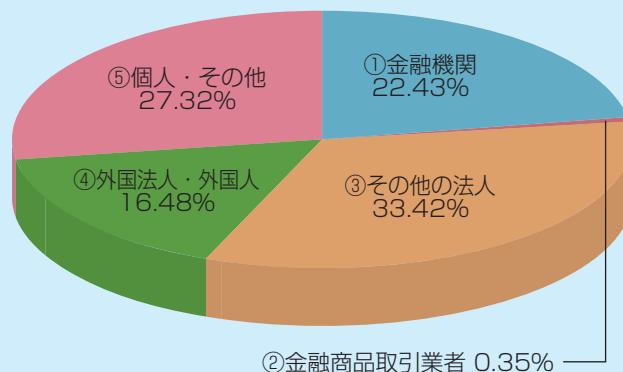
**▶ 大株主の状況** (平成22年12月31日現在)

株 主 名	持株数 (株)	持株比率 (%)
アイシーエスピー有限会社	2,273,000	14.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,445,800	9.12
宮田 昌彦	764,800	4.82
宮田 憲次	752,400	4.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	750,200	4.73
セント・ジュード・メディカル株式会社	708,000	4.46
株式会社ハイレックスコーポレーション	600,000	3.78
株式会社ホギメディカル	547,500	3.45
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーノーザントラストガンジーアイリッシュクライアッツ	455,390	2.87
朝日インテック社員持株会	344,920	2.17

(注) 持株比率は自己株式(230株)を控除して計算しております。

**▶ 所有者別株式分布状況** (株式数15,852,600株、株主数2,958名)

- ①金融機関…………… 22.43%
- ②金融商品取引業者…………… 0.35%
- ③その他の法人…………… 33.42%
- ④外国法人・外国人…………… 16.48%
- ⑤個人・その他…………… 27.32%



## ▶ 株式に関する手続きについて

株券電子化に伴い、証券口座等に記録された株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等を経由して行います。また、支払期間経過後の配当金のお支払い及び特別口座に記録された株主様の各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にてお取次ぎいたします。

### ○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>○支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>○株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 <b>TEL 0120-232-711 (通話料無料)</b>
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

### ○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別口座から一般口座への振替請求</li> <li>○単元未満株式の買取請求</li> <li>○住所・氏名等のご変更</li> <li>○特別口座の残高照会</li> <li>○配当金の受領方法の指定 (*)</li> </ul>	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 <b>TEL 0120-232-711 (通話料無料)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○郵送物等の発送と返戻に関するご照会</li> <li>○支払期間経過後の配当金に関するご照会</li> <li>○株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>	株主名簿管理人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>[手続き書類のご請求方法]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音声自動応答電話によるご請求 <b>0120-244-479 (通話料無料)</b></li> <li>○インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a></li> </ul> </div>

(\*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

## ▶ 株主メモ

証券コード	7747
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
決算期	6月30日
定時株主総会	毎年9月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 6月30日 中間配当金 12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
公告方法	当社ホームページ ( <a href="http://www.asahi-intecc.co.jp/">http://www.asahi-intecc.co.jp/</a> ) に掲載します。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部 名古屋証券取引所市場第二部 大阪証券取引所JASDAQ市場

## (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でのお支払いいたします。

IR情報は、ホームページ上でもご覧になれます。

ニュースリリース、財務情報、株主情報など、ホームページ上で最新の情報をご提供しております。

▶ <http://www.asahi-intecc.co.jp/>

株主様向け  
アンケート

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、  
アクセスコード入力後に表示される  
アンケートサイトにてご回答ください。  
所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 7747

携帯電話からもアクセスできます



QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本中間報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

その他ご意見がございましたら、誠に手数  
数ですが当社ホームページ「お問い合わせ」  
にご記入ください。  
<http://www.asahi-intecc.co.jp/>



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」

TEL: 03-5777-3900 (平日10:00~17:30) MAIL: [info@e-kabunushi.com](mailto:info@e-kabunushi.com)



〒463-0024 名古屋市守山区脇田町1703番地  
TEL 052-768-1211 (代)

<http://www.asahi-intecc.co.jp/>

